



研究テーマ

1 犬の犬糸状虫症の診断と治療に関する研究

2 犬と猫の悪性腫瘍の診断と治療に関する研究

3 産業動物（牛、豚、鶏）における獣医外科学的技術とその応用に関する研究

研究概要

- 1 犬糸状虫症（フィラリア症）は未だに診断と治療が難しい犬の病気ですが、適切な治療法について研究、調査しています。
- 2 犬猫も「がん」を患い、治療が難しいケースが多々あります。そのような動物達に対し、有効な治療法を検討しています。
- 3 牛や豚では運動器疾患やヘルニア疾患が多く、の診断、治療を積極的に行っています。また、鶏では高度な技術を必要とする精巢摘出術についても研究を行っています。

日高 勇一

ひだか ゆういち
農学部
獣医学科
獣医外科学研究室

教授

キーワード

犬、猫、牛、豚、鶏、犬糸状虫（フィラリア）、がん、手術、抗がん剤治療、動注化学療法、肺転移治療、臍ヘルニア、陰囊ヘルニア、骨折、脱臼、関節炎、雄鶏の去勢技術

特許情報・
共同研究・
応用分野など

1 犬の犬糸状虫症の診断と治療に関する研究

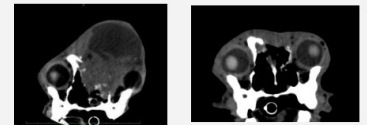
予防薬普及により少なくなった病気と思われるかもしれませんが、動物病院に来院しない犬や保護犬の多くに犬糸状虫（フィラリア）の寄生がみられます。その診断と治療は大変難しく、必要な器具も不足しているのが現状ですが、少しでも虫を摘出できる技術を考えています。



腹水貯留例

2 犬と猫の悪性腫瘍の診断と治療に関する研究

犬や猫も「がん」を患い、とくに、頭頸部（口腔、鼻腔、喉頭）、膀胱の悪性腫瘍や乳癌の肺転移などは、その治療法の選択に苦慮します。そこで、ヒトの医療を参考に、様々な治療法を組み合わせ、悪性腫瘍に苦しむ動物達の治療に取り組んでいます。



悪性鼻腔腫瘍（左：治療前、右：治療後）

3 産業動物（牛、豚、鶏）における獣医外科学的技術とその応用に関する研究

牛や豚の外科疾患（骨折や脱臼、ヘルニアなど）は、その経済的理由により治療されることなく、淘汰されてきました。しかし、一頭でも無駄にならないよう努力しています。また、雄鶏は精巢を摘出する事で、肉質が改善する事が知られています。しかし、難易度が高く、普及していません。より簡便な技術を考案することで、雄鶏の活用範囲が広がるかもしれません。



子牛の骨折（左：手術前、右：手術後）

ホームページ

<https://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/vetsurg/>

技術相談に応じられる関連分野

メッセージ

共同研究の希望テーマ：

- ・ 犬糸状虫症の診断と治療
- ・ 犬と猫の悪性腫瘍の診断と治療
- ・ 牛と豚の外科疾患の診断と治療
- ・ 雄鶏の精巢摘出術に関する研究